



芸術文化振興を通じ、 より豊かな社会創造を

ひびのたかし
日比野 隆 司

公益財団法人 日本交響楽振興財団会長
株式会社 大和証券グループ本社取締役会長

新年早々、嬉しいニュースが飛び込んできました。ピアニストの反田恭平さんと小林愛美さんのご結婚です。私が取締役会長を務める大和証券グループは、これまで様々な芸術文化支援活動を行ってきましたが、2022年は反田さんの全国公演の特別協賛を行ったのに加え、小林さんにご出演いただいた二条城音舞台も協賛いたしました。お二人の素晴らしい演奏を、数多くの皆様にお届けするお手伝いできたことは大変な喜びです。

芸術文化に触れる機会が身近にあることの素晴らしさを最初に感じたのは、ロンドンに駐在した20代の時です。入社3年目の1982年当時、円の国際化が進み、日本の機関投資家の動きを世界が注目していました。ロンドンの金融街シティで、日本人が肩で風きって歩いた唯一の時代とっていいでしょう。わが国経済の急速な拡大を背に仕事に追われる毎日でしたので、ゆっくりとクラシックを聴くようなゆとりはありませんでしたが、それでも、生活圏内のあちこちに博物館、アートギャラリー、劇場、図書館、そしてコンサートホールがあり、ハムステッド・ヒースやリージェンツ・パークといった美しい公園が演奏会で賑わっているのを見るにつけ、芸術文化が日常の一部となっている“大英帝国”の豊かさに圧倒されたことは今でも覚えています。特に印象的だったのがBBC Proms。クラシック音楽のハードルを下げ、より多くの国民がその素晴らしさを体感することを目的に毎年7月から9月にかけて開催される世界屈指の音楽祭ですが、そのスケールもさることながら、チケットがわずか数百円で手に入るという“身近さ”には本当に驚かされました。当時のイギリス経済はいわゆる英国病を引きずった状況にあり、空前のバブル景気へと向かう日本経済との勢いの差は歴然としていましたが、その後の両国の歩みを見ると、

芸術文化を大切にする社会のゆとりの差がそのまま表れているように思えてなりません。

それから40年を経た2022年、大和証券グループはBBC Proms Japanの開催支援を行いました。2019年に続く2度目の特別協賛で、あわせて23,000名の皆様にクラシックを始めとする様々なジャンルの音楽の素晴らしさに触れていただくことができ、人生の不思議な縁を感じております。また、創業120周年記念事業の一環として、新進気鋭の若手芸術家を支援する『ART NEXT STAGE』プログラムを、アートアワードトーキョー丸の内実行委員会の協力を得て、昨年10月よりスタートさせました。これらの芸術文化支援活動が目指すところは、ひとつには芸術家の皆様の活動をご支援すること、いまひとつは、持続的かつ幅広い体験機会の提供を通じて自由闊達で創造性の溢れる社会の構築に貢献することにあります。

この度、当財団の会長に就任いたしました。折しも、コロナ禍や国際情勢の悪化で、芸術文化活動の持続性が脅かされる状況となっております。しかしながら、人が人らしく生きていくために必要なこと、活力をもって毎日を迎えるために必要なものが芸術文化であることを、われわれ自身が再認識したのも、また事実です。実際、新しいテクノロジーを活用した芸術文化支援活動が世界各地で勃興しています。本年、創立50周年を迎える当財団においても、これまで以上に柔軟な発想で、オーケストラの活動を安定的にサポートできるような仕組みづくりと、より多くの国民の皆様にはオーケストラの素晴らしさを体験していただける機会を提供する環境整備に尽力してまいります。関係者の皆様におかれましても、引き続き当財団の活動へのご理解とご支援、そして積極的なご参加をお願い申し上げます。

2022年度の公演活動（競輪補助事業）について

コロナ禍での活動3年目となった2022年度であったが、巡回公演12回、アマチュアオーケストラ演奏活動5回をすべて予定どおり開催することができた。また、2年間中断していた楽器演奏クリニックも、舞鶴、江田島、豊橋の3カ所で再開したほか、合唱団などの“3密”回避のために実施できなかった「第九演奏会」も、3年ぶりに長野で実施した。2022年度の主な活動を以下に紹介したい（敬称略）。

若手が躍動し、大家が存在感を示した巡回公演

当財団は公演活動を通じて、演奏家や交響楽団の育成・支援を行っている。2022年度の巡回公演で目立ったのは、若手とベテランの指揮者たちである。若手では太田弦、坂入健司郎（6ページ参照）、横山奏、齋藤友香理、出口大地が登場する一方、彼らを指導してきた小林研一郎、尾高忠明、円光寺雅彦、山下一史といった大家が存在感を見せつけた。

まだ20代の太田弦は江田島公演に出演し、広島交響楽団を指揮した。会場はスポーツセンターであったが、オーケストラ音楽を各地に届けるという巡回公演の原点に戻ったような演奏会となった。太田は2年間の大阪交響楽団正指揮者を経て、2023年4月から仙台フィル指揮者、24年4月からは九州交響楽団首席指揮者に就任予定である。2022年末は日本フィルの第九を振っている。



江田島公演（11/5江田島市スポーツセンター）

一昨年、ビジネスの世界から指揮者に転身した坂入健司郎は、13歳から指揮台に立つなど一部では知られた存在であった。指揮者専業となつてからの短い期間に主要楽団の大半と協演し、実力どおりの活躍を見せている。岡谷公演では新日本フィル、郷古廉とショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第1番を豊かに響かせ、岡谷の聴衆をうならせた。

一方、ベテラン陣では、尾高忠明が音楽監督を務める大阪フィルハーモニー交響楽団とともに舞鶴公演を行った。菊池洋子とのショパンのピアノ協奏曲第1番を聴いた聴衆は、「通常なら大阪のフェスティバルホールに行かなければ聴けないのに、自宅（いえ）の近くでオーケストラとピアノの演奏を聴けてこんなにうれしいことはない」と、巡回公演が支持されているわ

けを見事に言い現してくれた。

若手と大家との絶妙な組合せが、いわき公演と豊橋公演で見られた。いわき公演では、小林研一郎と2021年10月のショパンコンクールで上位進出を果たした“かていん”こと角野隼斗（すみの・はやと）が、読売日本交響楽団とラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を演奏した。いわきは小林の出身地でもあり、また角野の人気も相俟ってチケットは即完売となる、大盛況の演奏会であった。

豊橋公演では、円光寺雅彦と佐藤晴真が東京フィルとチャイコフスキーのチェロ協奏曲というべき「ロココ風の主題による変奏曲」を表現力豊かに演奏した。円光寺は2019年まで名古屋フィルの正指揮者を務め、また佐藤は名古屋出身であることからいつもにまして大きな拍手が送られた。巡回公演に地元や近隣出身者が登場すると、演奏会をはじめでだという青少年がオーケストラ音楽に親しむきっかけともなることもあり、意想外に軽視できないポイントになっている。

3年ぶりの楽器演奏クリニック

巡回公演の一環として行っている楽器演奏クリニックは、プロの奏者が中高生に演奏指導する場である。新型コロナウイルスの影響で2020年度から2年連続で開催できなかったが、今年度は舞鶴、江田島、豊橋の3カ所で15クラス89名のクリニックを行うことができた。

江田島では11月の巡回公演より1カ月前にクリニックを実施しており、本番日のプログラムには中学生が楽器の演奏指導を受けている写真が掲載された。



舞鶴公演 楽器演奏クリニック（7/5白糸中）

アマチュアオーケストラ演奏会

アマチュアオーケストラの演奏会では、今回はじめて横浜戸塚区民オーケストラが登場した（5ページ参照）。演奏曲目ではよく知られたクラシックの名曲ばかりでなく、カリンニコフの交響曲第1番やドヴォルザークの交響曲第6番などあまり聴く機会のない曲目

が演奏された。独奏者ではピアノの三船優子、ヴァイオリンの千住真理子と協演するなど、アマオケ側の熱い姿勢が感じられた。

アマオケが演奏会を開催するには、半年程度練習に時間をかけねばならない。しかし、コロナ禍においては「3密」回避の観点などから練習場の確保が難しい。練習量の不足や演奏会場の確保難などから、コロナ禍初年の2020年度には演奏会の中止が相次いだ。そこで、21年度からはアマオケ演奏会5回に対して6件の応募を受付けることにした。本年度は幸いなことに演奏会のキャンセルはなかったが、6件目の西東京ジュニア・ユースオーケストラの演奏会は当財団の事業として実施した。

本年度の演奏活動の詳細については、当財団のアマチュアオーケストラ支援ホームページを参照していただきたい。

HP <http://www.symphony.or.jp>



3年ぶりの特別支援学校オーケストラコンサート

新型コロナウイルス感染のおそれから、特別支援学校オーケストラコンサートは2020～21年度開催を見送ってきたが、5月31日～6月3日、石川県野々市市、小松市、珠洲市で3年ぶりに開催した。

演奏はオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）、指揮は碓山隆一郎（いかりやま・りゅういちろう）さん。碓山さんは鹿児島県喜界島（奄美大島の東に位置する島）出身で、東京音楽大学で指揮を広上淳一さんなどに学び、ドイツのマンハイム音楽大学に留学したこれからの活躍が期待される30代半ばの指揮者である。

今回もOEKのメンバー全員が出演する演奏会となった。コンサートホールに足を運ぶのがはじめての子や3年ぶりの訪問となる子がほとんどで、校外での活動にウキウキしつつも、他校の児童生徒と合流するためやや緊張気味の行事となった。参加者は学校の体育館では味わえない、オーケストラとホールが醸し出す音や響きを体験することができた。

新型コロナウイルス感染症に社会全体が馴染んできたとはいえ、コロナ対応は依然ゆるがせにできず、これまでの特別支援学校オーケストラコンサートとはいくつかが違う点が見られた。当然のことながら、子どもたちはみなマスクを着けて参加。また、通常なら「オーケストラと一緒に歌おう」コーナーでオーケストラの演奏に合わせて合唱できるのだが、コロナ禍では声出しは不可。代わってカスタネットやタンバリンなど打楽器を鳴らしたり、手拍子をとっての合奏となった。そうした中でも「楽器紹介」や「君もマエストロ！～指揮者体験～」は実施することができ、いつものコンサートの感じを取り戻すことができた。2022年度の概要は右表のとおり。

2022年度青少年の健やかな成長を育む活動補助事業 (公益財団法人JKA 競輪公益資金補助事業)

〔巡回公演〕 http://www.symphony.or.jp/i_annai_2022_1.html
※楽器演奏クリニック実施

| | | |
|--------------|--------------|---|
| 埼玉県 新座市 | 7/17 | 東京21世紀管弦楽団 指揮 浮ヶ谷孝夫、ピアノ 福岡洸太郎 |
| 岐阜県 下呂市 | 8/11 | 大阪交響楽団 指揮 齋藤友香理、ナレーション 日高のり子 |
| 京都府 舞鶴市※ | 8/28 | 大阪フィルハーモニー交響楽団 指揮 尾高忠明、ピアノ 菊池洋子 |
| 長野県 岡谷市 | 10/10 | 新日本フィルハーモニー交響楽団 指揮 坂入健司郎、ヴァイオリン 郷古廉 |
| 福島県 いわき市 | 10/10 | 読売日本交響楽団 指揮 小林研一郎、ピアノ 角野隼斗 |
| 山形市 | 10/16 | 山形交響楽団 指揮 工藤俊幸、朗読 木村多江 |
| 広島県 江田島市※ | 11/5 | 広島交響楽団 指揮 太田弦 |
| 静岡県 伊豆の国市 | 11/27 | 新日本フィルハーモニー交響楽団 指揮 横山奏、ヴァイオリン 川久保賜紀 |
| 長野市 | 12/24 | 東京交響楽団 指揮 山下一史、チェロ 外山賀野 ソプラノ 西本真子、メゾソプラノ 金子美香 テノール 伊藤達人、バリトン 近藤圭 |
| 茨城県 日立市 | 2023年 2/4 | 東京フィルハーモニー交響楽団 指揮 出口大地、ヴァイオリン 廣都留すみれ |
| 愛知県 豊橋市※ | 2/5 | 東京フィルハーモニー管弦楽団 指揮 円光寺雅彦、チェロ 佐藤晴真 |
| 和歌山県 有田市 | 2/26 | 大阪交響楽団 指揮 澤和樹、ピアノ 實川風 ヴァイオリン 林七奈 |

〔アマチュアオーケストラの演奏活動〕
http://www.symphony.or.jp/iv_annai_2022.html

| | | |
|-------------|-------|--|
| 愛知県 名古屋市 | 7/3 | ブランタン管弦楽団 指揮 中村暢宏、オルガン 吉田文 |
| 神奈川県 鎌倉市 | 7/24 | 戸塚区民オーケストラ 指揮 井崎正浩 |
| 東京都 墨田区 | 7/30 | F A F管弦楽団 指揮 水村怜央 |
| 広島市 | 10/23 | 広島市民オーケストラ 指揮 清水醍輝、ピアノ 三船優子 |
| 山形市 | 11/5 | 山形フィルハーモニー交響楽団 指揮 榎山和明、ヴァイオリン 千住真理子 |

2022年度日本交響楽振興財団支援事業

〔アマチュアオーケストラ公演〕
http://www.symphony.or.jp/vii_sonota_003.html

| | | |
|-------------|---------------|-----------------------------|
| 東京都 西東京市 | 2023年 1/22 | 西東京ジュニア・ユースオーケストラ 指揮 宮澤等 |
|-------------|---------------|-----------------------------|

〔特別支援学校オーケストラコンサート〕
http://www.symphony.or.jp/viii_annai_2022.html

| 管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢、指揮：碓山隆一郎 | |
|------------------------------------|--|
| 石川県 野々市市 5/31 10:10～11:00 | 野々市市文化会館 参加校：盲学校、ろう学校、明和特別支援学校 いしかわ特別支援学校、医王特別支援学校 入場者数：児童・生徒、学校関係者など300名 |
| 石川県 小松市 6/1 10:00～11:00 | 小松市民センター 参加校：錦城特別支援学校、小松特別支援学校 小松瀬瀬特別支援学校 入場者数：児童・生徒、学校関係者など300名 |
| 石川県 珠洲市 6/3 14:00～15:00 | ラポルトすず 参加校：七尾特別支援学校珠洲分校 珠洲市立緑丘中学校 入場者数：児童・生徒、学校関係者など210名 |

文化振興のあゆみ

はし づめ てつ や
橋 爪 哲 也

岡谷市文化会館館長



岡谷とカノラホール

岡谷市は、長野県のほぼ中央にある諏訪湖畔に位置し、東に八ヶ岳連峰、遠くに富士山を臨む、湖と四季を彩る山々に囲まれた風光明媚な人口およそ5万人のまちです。

古くは製糸業、現在では精密工業と産業の形態を変えながら、工業中心の都市として発展してきました。その間、高速交通化、高度情報化、高齢化といった急激な社会情勢の変化に対応すべく、新たな街づくりのための基盤整備が図られました。そうしたなかで、市民の生活意識や価値観の多様化とともに様々な文化活動が活発となり、これを支える快適な環境整備が求められ、芸術文化振興の拠点として岡谷市文化会館の建設が進められました。

そして平成元年11月3日文化の日に、岡谷市文化会館（カノラホール）が誕生しました。「カノラホール」という愛称は市民投票で選ばれ、「カノラ」とはラテン語で「高らかに響き渡る」という意味が込められています。お陰様で愛称のとおり優れた音響は多くのアーティストに好評を博しており、クラシックのホール・レコーディングなどにも利用されています。

管理運営については、地域の芸術文化の提供、創造、発信などを担う「(公財)おかや文化振興事業団」が指定管理を受け、自主事業、育成事業、貸し館事業の充実に努め、自主事業につきましては開館以来、クラシック音楽をはじめ幅広いジャンルにわたって、多くの方々に満足していただけるよう取り組んでいます。

巡回公演で文化振興を

(公財)日本交響楽振興財団との関わりは平成18年(2006年)に溯ります。この頃になると社会経済情勢も大きく変わり、カノラホールがオープンした当時の安定した経済情勢は望むべくもない状況が続いており、ホールとしての運営も工夫が必要になっていました。一方で、自主事業においてオーケストラ公演はオペラ、バレエと鑑賞事業の3本柱に位置付けられており、地域市民の皆様が楽しみにしている交響楽を何とか「お手ごろな価格」で提供できないかと模索をしていると

きに、交響楽振興財団の「地方巡回公演」を知り、共催事業として実現させていただきました。財団との協議を重ね、楽団は新日本フィルハーモニー交響楽団、ソリストは人気のピアニスト小山実稚恵さんを迎えることになり、多くのお客様に楽しんでいただくことができました。

以来、地方ではなかなか鑑賞する機会の少ない著名ソリストを迎えた大規模編成によるオーケストラコンサートが実現しており、こうしたすぐれた芸術文化の提供により地域の文化振興に大きく寄与しています。最近の事例を紹介すると、2021年度は飯森範親さんの指揮、阪田知樹さんのピアノでラフマニノフのピアノ協奏曲第3番、22年度は坂入健司郎さんの指揮、郷古廉さんのヴァイオリンでショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第1番を演奏するなど、岡谷のお客様は演奏会のたびにだれが出演するのか毎回楽しみにしています。

また、当館には1階ロビーに展示機能が備わっており、文化振興事業を紹介するコーナーを設けていますが、そこで過去3回の「地方巡回公演」のオーケストラ公演を紹介させていただいています。様々な目的で来館されるお客様に、すぐれた交響楽公演が身近に鑑賞しやすく行われていることを知っていただき、次の公演を楽しみにしていただくことに繋がればと期待しています。

コロナ禍にあっても、すぐれた演奏会には多くのお客様にお出でいただいています。改めて芸術文化の振興は大切な取り組みであると感じます。こうした取り組みができますことを感謝申し上げ、これからも(公財)日本交響楽振興財団のご支援をいただきながら、地方文化の振興に努めさせていただければと考えています。



創立40周年に寄せる想い

おおさわけんじ
大 沢 健 治

戸塚区民オーケストラ事務局長

当団は1981年春、横浜市初の区単位による市民オーケストラとして発足しました。はじめは小さくスタートしましたが、年を追うごとに団員が増え活動の幅が広がると、音楽活動を円滑にするためにいろいろと対応してきました。創立25年をすぎた2008年からは、5年単位の活動計画を立て、創立30年の2011年には団員がかねてから念願していた横浜みなとみらいホール大ホールにて、サン＝サーンスの交響曲第3番「オルガン付き」を多くのお客様の前で披露することができました。

みなとみらいでの成功を踏まえ、創立35周年にはマーラーの交響曲第5番に挑戦することになりました。これは遥かに高い目標であり、無謀な挑戦ともいえるものでした。マーラーの難曲を演奏するまでの5年間をどうすごすか。演奏力向上に向けて、毎年すこし難しい曲に挑戦し続けることになりましたが、これに対し団内では賛否両論がありました。しかし、計画2年目に演奏したシューベルトの交響曲第9番「グレート」の成功で最高の充実感を味わうと、マーラー5番演奏に対する賛同者も増えたのではないかと思います。

翌年からはブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」、バルリオーズの幻想交響曲を経てマーラーへ。実は創立26年の時に、マーラーの交響曲第1番「巨人」という峰を制覇したのですが、当時未熟だった私たちはかなりの苦戦を強いられ、一部の団員は第5番にリベンジの想いを抱いていたように思います。団員一同の苦労の末、この演奏会は大成功。オーケストラが成長期から安定期に前進した時期と言えます。

このようにして歩んできた40年、次の節目にと予定した2020年のサマーコンサ

ートの演目はベートーヴェンの交響曲第9番「合唱付き」。多くの労力と時間をかけて合唱団やソリストの手配を完了、また助成も取りつけ、あとは練習を開始するのみとなったところで、新型コロナウイルス感染症が蔓延、コンサートは中止に。活動休止は約1年半続くこととなり、多くの団員が無念がるとともに、オーケストラ自体が存続できるのか緊張を強いられました。

しかし、世の中がすこし落ち着いてきた2022年春、「団創立40周年記念シリーズ」と銘打った定期演奏会で活動再開。夏にはシリーズ第2章となるサマーコンサート2022を開催しました。この公演は日本交響楽振興財団との共催で競輪補助事業としていただき、本格的な活動再開を考えていた私たちにとって大きな励みになりました。演目のキーワードは「運命」、さすがに第9交響曲は諸準備の都合から無理でしたが、ベートーヴェンの生誕250年に近いこともあり交響曲第5番を、また後半は運命や宿命を連想する映画音楽を選曲しました。後半は彩り豊かな衣装に着替えて演奏したので、お客様はリラックスして目も耳も楽しんでもらえたと思います。また、私たちも久しぶりのサマーコンサートが盛会となり、音楽ができる喜びを深く再認識した次第です。

当団のこれまでの歴史や伝統を踏まえつつ、活動規約記載の「戸塚区およびその周辺地域の文化活動を促進させる」とともに「自らの音楽的向上を目指す」と

いう目的に向かい、今後も団員仲良く音楽を楽しみながら末永く活動していく所存です。最後になりましたが、大きな力添えをいただきました日本交響楽振興財団に団員一同心よりお礼申し上げます。



2022年7月24日鎌倉芸術館

モノに変えられない価値を伝えるために

さか いり けん し ろう
坂入 健 司 郎

指揮者



はじめまして。坂入健司郎です。僕はいまオーケストラの指揮者をしています。今年5月に35歳になりますが、一昨年（2021年）までは「チケットぴあ」でお馴染みのぴあ株式会社でフルタイムのサラリーマンをしていました。一昨年8月、名古屋フィルハーモニー交響楽団を指揮する機会をいただいた折に退職を決意、10月に退社しました。つまり、「専業」の指揮者としては1年目をようやく終えたばかりの新人です。“34歳のルーキー”なので慣れないことの連続でしたが、振り返れば全国各地のオーケストラを指揮して、昨年の6月には初めて海外（モナコ・モンテカルロ）で指揮コンクールにも挑み、たくさんの刺激をもらった1年でした。

ぴあ、スポーツ庁、東京五輪チケット担当……

新卒でぴあ株式会社に入社してからは様々な業務を経験しました。最初はチケットぴあのWebプロモーション・マーケティングを担当、その後は映画・韓流・ライブハウス・アイドルイベントなどクラシックの世界とはほど遠いジャンルで営業職をしました。クラシック音楽のファンとしか交流がなかった僕にとって、さまざまなエンターテインメントを嗜好する方々と接することは新鮮でした。

その後、ぴあからスポーツ庁（文部科学省）に2年間出向することに。スポーツ団体のガバナンスを担当すること



文部科学政務官より広報顕彰を授与される（2020年、大臣室）

となり、スポーツ団体に不祥事が発生した際には長官や大臣の想定問答の素案を作ったり、NHKのトップニュースで僕が映り込んでしまったときには携帯が鳴りやまないほど知人から連絡がきたこともあったり、音楽をやっただけでは得難い貴重な勤務経験でした。スポーツ庁への出向を終えてからは、東京オリンピックのチケット担当へ。

無観客開催が決定してからも会期中は新国立競技場に張り付いてサポートしつつ、つぶさに大会の趨勢を見届けたのち、10年半のサラリーマン生活に終止符を打ちました。

いままでの経歴を書き連ねていくと、突拍子のないキャリアチェンジだったかもしれません。しかし、振り返ってみれば悩むことはあったものの、身がよじれるような大きな決断をしたことはなく、自然の流れに身を任せた結果だったように思います。また、こうした仕事をしている間にも仲間たちとオーケストラを作って、指揮者の活動は続けていました。クラシック音楽に触れること、指揮をすることだけは、飽くことなく一生続けられるイメージがついていた。そのことを確認できた10年半でもありました。

「モノに変えられない価値」をどう伝えていくか

“専業”の指揮者になってから、毎日考えていることがあります。それは音楽が持つ「モノに変えられない価値」をどう伝えていくか、ということです。近年、モダンアートが世界的に大人気で、巨額の値段で取引され、芸術への関心は高まっているように見えます。一方で、音楽はモダンアート作品と違って、「おカネを支払った対価としてモノを得る」という最も基本的な経済活動からはかけ離れた立ち位置にいます。私は、おカネを支払ってもモノを得ることができない音楽のような時間芸術においても、近年のモダンアートのように価値を高めていかなければならないし、価値を感じていただくために粉骨砕身しなければならないと考えています。素晴らしい音楽に立ち会えたとき、演奏会の時間が仮に2時間弱であったとしても、興奮のあまり刹那に感じたり、あるいは息を呑む美しさに無限の時間を感じたりする瞬間があります。それは「心の癒し」という表現にとどめることができない、私たちの胸の中に生涯残る「体験」です。

最近のオーケストラや独奏で活躍する演奏家たちは長足の進歩を遂げています。是非とも直接足を運んで演奏会を「体験」していただきたい。そして、そういった素晴らしい音楽体験をみなさまとより多く共有できるように、私も日々切磋琢磨しているところです。

街の個性を体現するオーケストラ

ふく やま おさむ
福 山 修

大阪フィルハーモニー交響楽団事務局長



©飯島隆

昨年、私の勤める大阪フィルハーモニー交響楽団が創立75周年を迎えた。国内では、東京フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、群馬交響楽団、東京交響楽団に次いで5番目に創設された西日本で最も長い歴史を持つオーケストラだ。私はこのオーケストラの事務局に入って32年になるが、これまでずっと考えつづけてきたことがある。それは「オーケストラの個性」とは何かということだ。

よく「個性を大切に」、「個性を伸ばして」と言われるが、再現芸術を使命とするオーケストラにとって必要なことは、作曲家の意図を汲みとり、楽譜どおり忠実に演奏する技術にある。もちろん楽譜に全てが書かれているわけではないから、演奏の解釈に違いは生まれるが、それは指揮者の個性や考え方によって変わるもので、オーケストラが自由に判断し演奏していいわけではない。ではそもそもオーケストラに個性は必要なのだろうか？

大阪フィルは数ある日本のプロオーケストラの中でも、その独特の響きが「大フィルサウンド」と呼ばれファンに親しまれてきた。その響きがどうやって作られたかといえば、創立から55年に亘って常任指揮者・音楽監督を務めた朝比奈隆（1908-2001）の指導によるところが大きい。先ず創立時から100名規模のフル編成オーケストラを目指し、レパートリーはベートーヴェン、ブラームス、ブルックナーといったドイツ、オーストリアの作曲家を中心として、オーケストラを



朝比奈隆（1998-7-16 #320定期）ブルックナー／交響曲第5番

抑制しない重厚でダイナミックなサウンドを追求した。しかし、その朝比奈が亡くなって22年、メンバーの大半が入れ替わり、大植英次、井上道義、尾高忠明とつづく歴代指揮者の下、レパートリーを広げ、演奏スタイルも変化を遂げた。それでもなお朝比奈時代の音が残っている、とファンから喜ばれているのは、朝比奈のDNAだけではなく、聴衆の気質にも関係があるのではないか、と思うようになった。

大阪は本音の文化と云うか、物事の良し悪しをはっきり言う人が多く、表現も派手でサービス精神が旺盛、面白いことが大好きな街だ。そうした聴衆を前に長年演奏をつづけることで、朝比奈隆率いる大阪フィルの音もダイナミックで歌心溢れるものになっていったのではないかと云う。よく「聴衆が演奏家を育てる」と云うが、オーケストラの「音」そのものにも聴衆が求める「色」が存在するように思う。だから音楽監督が代わっても、今もその音色が生きつづけているのではないだろうか。

先にオーケストラに個性は必要なのだろうか？と書いたが、それは必要なのではなく、演奏における聴衆とのコミュニケーションの中で、結果「生まれる」ものなのだと思う。

だからこれからも街の個性がオーケストラの音となって、あまたの名曲が聴く人々の心に豊かに響いて欲しいと願う。そうありつづけてこそオーケストラがその街の文化だと胸を張って言える気がするからだ。

ご支援いただいている団体・企業

団体

(一社) 信託協会
(一社) 日本鉄鋼連盟

(一社) 日本建設業連合会

石油連盟

ほか

企業

朝日生命保険(相)
アサヒグループホールディングス(株)
岩谷産業(株)
ANAホールディングス(株)
ENEOSホールディングス(株)
(公財) オリックス宮内財団
王子ホールディングス(株)
(株)河合楽器製作所
キッコーマン(株)
キヤノン(株)
キヤノンマーケティングジャパン(株)
KDDI(株)
三機工業(株)
清水建設(株)
信越化学工業(株)
住友化学(株)
住友商事(株)
住友生命保険(相)
住友林業(株)
セイコーホールディングス(株)
積水化学工業(株)
(株)大和証券グループ本社

第一生命ホールディングス(株)
大成建設(株)
武田薬品工業(株)
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
(株)電通
トヨタ自動車(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京ガス(株)
東レ(株)
(一財) 凸版印刷三幸会
(株)ニフコ
(株)日新
(株)日清製粉グループ本社
日本ガイシ(株)
日本製紙(株)
日本製鉄(株)
日本生命保険(相)
野村ホールディングス(株)
浜松ホトニクス(株)
(株)日立製作所
東日本旅客鉄道(株)

(株)フジテレビジョン
富士通(株)
富士フイルム(株)
双葉電子工業(株)
本田技研工業(株)
前田建設工業(株)
丸紅(株)
三井住友海上火災保険(株)
三井物産(株)
三井不動産(株)
三菱重工業(株)
三菱商事(株)
三菱地所(株)
三菱電機(株)
三菱マテリアル(株)
明治安田生命保険(相)
(株)ヤマハミュージックジャパン
ユニ・チャーム(株)
(株)龍角散
ローム(株)

編集だより

□日本交響楽振興財団は今年創立50年を迎えます。賛助会員やJKAをはじめとする関係各位の長年にわたるご支援に厚く感謝申し上げるとともに、日比野隆司新会長のもと気持ちも新たに交響楽振興のために努めてまいります。引き続きお力添えいただきますようよろしくお願い申し上げます。

□昨年、当財団の運営に尽力いただいた偉大な作曲家お二人を喪いました。9月に急逝された野田暉行先生は、長らく東京藝術大学教授として創作活動と後進の指導に当たられました。当財団が2009年まで行っていた「作曲賞」の選考に熱心に取り組まれたほか、99年から昨年まで評議員として巡回公演のあり方などに関し積極的にご発言いただきました。

10月にお亡くなりになった一柳慧先生は、わが国を代表

する作曲家として最期まで旺盛な創作活動を続けられました。当財団では1990年に作曲賞選考委員に就任いただいたのを手始めに、96年企画委員、2009年～2016年評議員、2017～2022年顧問を務めていただきました。文化勲章受章者ながら、会議では静かに人の話を聞かれる、飄々とした表情が印象的でした。ご両名のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

□2023年3月1日現在の理事、監事、評議員、顧問は次のとおりです。理事：会長 日比野隆司、専務理事 久保田政一、大谷康子、三枝成彰、高松則雄、新沼宏、林寛爾、監事：岸本政昭、藤原清明、評議員：海老澤敏、小宮山淳、佐沢英紀、寺西基之、後藤篤樹、根本勝則、顧問：岩沙弘道、榎原定征、早川茂、原良也（敬称略・順不同）。

公益財団法人 日本交響楽振興財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-9-3
電話 03-3253-2032 FAX 03-3253-0566
編集・発行人 林寛爾

E-mail nihon@symphony.or.jp
URL <http://www.symphony.or.jp>

2023年3月6日発行